

令和7年度 東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者管理運営状況評価(一次評価)

施設名:東京都江戸東京博物館(分館江戸東京たてもの園を含む)

		確認項目		評価水準		配点	評価	評価理由
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕等を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	○	○江戸博では、新規模型の増設や没入型展示の整備により常設展示の復旧を完了するとともに、大規模改修に伴う不具合について都と調整の上で順次修繕を進めた。また、たてもの園では長期保全計画に基づく修繕や耐震化、燻蒸・日常点検等により文化財建造物の適切な維持管理と来園者の安全確保を実施した。 ○自衛消防訓練の実施や多様な来館者を想定した訓練等により危機管理体制の向上を図るとともに、事故発生時には迅速な報告・対応が行われている。 ○運営委員会及び外部評価委員会を開催し、外部有識者の意見を踏まえた運営改善を行っている。		
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	○			
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○			
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	○			
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○			
	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○	○江戸博では休館中であるが指定管理料を中心に安定した収支を確保した。また、一般料金を600円から800円に改定したが、外部評価委員から妥当との意見が示されている。 ○保全物品台帳により、都有財産の適切な管理が行われている。		
(2)外部資金等の活用		助成金・協賛金等の外部資金を積極的に活用している。	×1	○				
(3)都有財産等(物品・現金等)の管理		必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○				
事業効果	事業の実施状況	(1)資料の管理 (収集、分類整理、記録、保管)	東京都の「収集の基本方針」に基づき、質の高い作品を収集するとともに、適正な環境で保管する。	×2	◎	◎休館中も資料収蔵委員会を開催し、計3,373点の資料収集を行うとともに、外部収蔵庫及び本館収蔵庫における環境管理や資料輸送を計画的に実施し、資料の保存管理業務を安定的に実施した。 ◎江戸博では、新たに9万5,203点の資料データをデジタルアーカイブに公開し、計画対象の公開作業を完了したほか、映像音響システムのリニューアルを行った。また、たてもの園では資料貸出・閲覧に対応し、外部機関との連携を維持しながら資料活用を図った。 ○江戸博では、館内研究会を立ち上げ、館員による研究発表と意見交換を通じて調査研究活動の促進と館事業への還元を図った。 ◎えどはく移動博物館として、出張ワークショップ30回(目標12回)、出張展示2回(目標1回)を実施し、いずれも目標を大きく上回った。特別支援学校や離島での実施など、博物館へのアクセスが難しい利用者に対する機会提供を行った。 ○江戸博では、常設展示の復旧工事を完了し、多言語音声ガイド(13言語)を整備するなど来館者サービスを向上させた。また、たてもの園では季節に応じた情景再現事業や伝統工芸実演等を実施し、復元建造物を活かした多様な催事を展開した。 ○江戸博では、巡回展「どうぶつ百景」や監修協力事業の実施により、館の認知度向上に寄与した。 ◎たてもの園では入場者数287,609人(目標比115%)を達成。情景再現事業やアクセシビリティ向上の取組等により来園者数の増加に繋がった。 ◎江戸博では、えどはくカルチャーの実施(参加者1,737人)や出張ワークショップ等により、休館中においても都民に対する学習機会の提供を行った。また、たてもの園では学校連携、ミュージアムトーク、障害者対応プログラム等を実施して幅広い層に学習の機会を提供した。		
		(2)資料の活用 (貸出・借受外、資料情報システム、映像ライブラリー、収蔵品の公開等)	作品貸与やデジタル・アーカイブに積極的に取り組むなど、収蔵作品の効果的な活用を図る。	×2	◎			
		(3)調査・研究	江戸東京の歴史と文化に関する魅力あふれる研究を実施するとともに、収蔵品の調査研究活動の成果や資料情報を広く国内外に発信する。	×2	○			
		(4)常設展・企画展の内容	リニューアルオープンに向けた準備を着実に行うとともに、常設展示の内容をベースにした移動博物館を実施する。	×2	○			
		(5)常設展・企画展の回数	移動博物館の実施回数13回	×1	◎			
		(6)特別展等の内容	リニューアルオープンに向けた準備を着実に行うとともに、収蔵品を活用し他館における巡回展企画や展覧会の監修協力を実施する。	×2	○			
		(7)特別展等の回数	館外での巡回展・監修協力の実施回数3回	×1	○			
		(8)たてもの園の事業内容	復元建造物を活かし、江戸東京の生活や商いの諸相を再現し、歴史や文化を体験してもらう。	×2	○			
		(9)たてもの園の入場者数	観覧者数 250,000人以上	×1	◎			
		(10)教育普及事業	講座、体験事業、アウトリーチなど、子供、高齢者、障害者、外国人に江戸東京の歴史と文化を学べる環境を提供するとともに、社会的課題の解決に取り組む。	×2	◎			
		(11)図書室の運営	江戸東京に関する図書や定期刊行物を広く収集し、提供する。	×1	○			
		(12)その他の事業	ボランティアの活用や友の会との連携等、その他の事業についても適切に実施している。	×1	○			
	運営の実施状況	(1)休館日及び開館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1	○	◎江戸博では都との共催によりリニューアルに向けたプロモーション(100日前イベント等)を実施するとともに、全国歴史民俗系博物館協議会の事務局館として年次集会の開催等を行った。また、たてもの園では関係団体と連携し「花と光のムーブメント」や東京大茶会を実施した。 ○江戸博では両国地域との連携によりにぎわい創出に寄与するとともに、たてもの園では小金井市等と連携し地域イベントや展示を実施した。 ○施設貸出に向けた準備や撮影対応を行い収入確保に努めた。 ◎江戸博ではリニューアルオープンに向けてHPリニューアルやSNS発信を行い、各SNSのフォロワー数が増加したほか、リニューアルオープンに向け多数のメディア露出が実現した。		
		(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他の博物館等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2	◎			
		(3)地域連携	地域と連携した事業や広報活動を行っている。	×2	○			
		(4)施設及び附帯設備の貸出	伝統文化を国内外に向けて発信する等、幅広い用途で貸出を行う。	×1	○			
		(5)広報、プロモーション	リニューアルオープンに向けて、HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2	◎			
	施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	○	○江戸博では13言語音声ガイドや触知案内板の整備、たてもの園では多言語対応アプリやバリアフリー設備の整備により、多様な利用者への配慮を行った。 ○多言語リーフレットや解説動画の整備により案内機能の向上を図った。 ○ミュージアムショップや飲食施設における商品・メニューの充実、江戸博では駐車場やEV充電設備整備などにより利用者サービスを向上させた。 ○アンケートや意見対応を通じたサービス改善を行い、顧客満足度は99.3%と高水準を維持している。		
		(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	○			
		(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	○			
		(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	○			
		(5)顧客満足度指標	総合満足度の割合	×1	◎			
		(6)その他 (利用促進に向けた新たな取組)	利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○			
	総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	○	○江戸博・たてもの園ともに、事業計画の基本方針に沿って、事業運営が適切に行われている。	

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
60	A

標準点	評価基準	S	63点以上
47点		A	59～62点
		B	42～58点
		C	41点以下

指定管理者の財務状況
財務状況には課題がなく、健全化に向けた取組が行われている。

特命要件の継続		
特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

特記事項	
要改善事項等	

令和7年度 東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者管理運営状況評価（一次評価）

施設名: 東京都写真美術館

※評価:◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)						
		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕等を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	○	○随時、設備機器の更新や故障による修理を行い、適切な施設設備の管理が行われた。
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	○	○事故発生時、速やかに都に一報し、適切に対応を行った。
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○	○幹部会や学芸ミーティング、スタッフ連絡会等の、職員及び委託業者間の情報共有を定期的に実施し、館の効率的かつ一体的な組織運営に努めている。
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	○	○企画諮問会議や外部評価委員会の設置、顧客満足度調査の実施により、事業内容の点検と、結果の施設運営への反映を適切に実施した。
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○	
	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○	◎支援会員について、会員向けイベントの本格再開が功を奏し、10社・1個人の新規入会を獲得。6年ぶりに前年度を上回る年度獲得額となった。
(2)外部資金等の活用		助成金・協賛金や支援会員制度等を通じた外部資金獲得に積極的に取組む。	×1	◎	○随時、都と連携しながら適切に物品管理を行った。	
(3)都有財産等(物品・現金等)の管理		必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○		
事業効果	事業の実施状況	(1)資料の管理 (収集、分類整理、記録、保管)	東京都の「収集の基本方針」に基づき、質の高い作品を収集するとともに、適正な環境で保管する。	×2	◎	◎新たに収集したロジャー・フェントンの写真作品は、希少価値が高くコンディションも良いとの評価であり、収集担当がこれまで培ったネットワークが活用された。
		(2)資料の活用 (貸出・借受外、資料情報システム、収蔵品の公開等)	作品貸与やデジタル・アーカイブに積極的に取り組み、収蔵作品の効果的な活用を図る。	×2	◎	
		(3)調査・研究	国際的な視点を踏まえた調査研究を行い、その成果を紀要やシンポジウム等で都民に還元する。	×2	○	◎昨年度を上回る作品情報の公開に取り組み、デジタルアーカイブ化を推進した。資料情報システムへのアクセス件数は昨年度実績の5倍近い1,249,124件の訪問数となった。
		(4)収蔵展の内容	収蔵作品を最大限活用し、質、満足度ともに高い展覧会を開催する。	×2	○	○収蔵展では、幅広い年代・ジャンルにわたる収蔵作品・資料を効果的に活用し、年間を通して内容や構成に配慮したバランスのよい展覧会を実施した。今後は、写真に詳しくない層を取り込めるような企画の実施も望まれる。
		(5)収蔵展の入場者数	来場者数106,170人以上。	×1	○	◎自主企画展では、『ルイジ・ギッリ』展が多くの入場者数に加え、図録の好調な売れ行き、外部文化施設との連携事業、国際ゲストの来館、ソウルのハンミ美術館への巡回を通じて、国際的なネットワークを構築し、作家・作品の魅力をより広く発信した。恵比寿映像祭は展示の拡充だけでなく、地域や施設との連携、アクセシビリティ向上や教育普及プログラムの拡充など、多角的に内容を充実させており、入場者数増にもつながっている。
		(6)自主企画展、上映事業、国際交流事業等の内容	多様な切り口での魅力的な展覧会を開催する。	×2	◎	
		(7)自主企画展、上映事業、国際交流事業等の入場者数	自主企画展来場者数156,950人以上、上映事業等来場者数44,000人以上。	×1	○	○自主企画展の来場者数は、計214,712人で達成率136.8%。(前年度比100.2%)である一方、上映事業は15,792人で達成率35.9%。(前年度比119.7%)と低い結果となった。
		(8)教育普及事業	写真愛好家だけでなく、子供、シニア層、子育て世代、障害者など対象者に応じた多様な教育普及と事業を実施し、社会的課題の解決に取り組むとともに、芸術文化の支え手の裾野を広げる。	×2	○	
		(9)図書室の運営	写真・映像の専門図書館として、作家・他美術館とのネットワークを活かした収集等を行う。	×1	○	
		(10)その他の事業	ボランティアの活用等、その他の事業についても適切に実施している。	×1	◎	
	運営の実施状況	(1)休館日及び開館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1	○	◎関係機関との連携として、総合開館30周年を記念し、ニューヨーク近代美術館写真部門のキュレーターを始め、国内外のゲストを招き、トークセッションを開催した。恵比寿映像祭では、フリティッシュ・カウンシルや在日オーストラリア大使館、台湾文化センターと協力して展示・上映を実施した。
		(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他の美術館等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2	◎	◎恵比寿映像祭では、都立文化施設4館の収蔵作品を展示する東京都コレクション展を実施し、一括運営のスケールメリットが発揮された。
		(3)地域連携	地域と連携した事業や広報活動を行っている。	×2	○	△誘致展は来場者数76,676人で目標72,800人を超えた一方、1階ホールの稼働率は70.4%で目標の80%に届かなかった。
		(4)施設及び附帯設備の貸出	1階ホールの稼働率80%以上、誘致展の来場者数72,880人以上。	×1	△	
		(5)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2	○	
	施設サービスの 実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	○	○アクセシビリティ向上の取組として、受付対応、体験型研修、触知図製作など基盤整備が進展した他、手話解説動画やイベントでの情報保障など鑑賞サポートも充実した。さらに、障害当事者との協働プログラムなど参画型の取組も深化し、共生社会に向けた環境整備を前進させた。
		(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	○	
		(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	◎	◎展覧会に即してミュージアムショップ及びカフェ事業者と協力した事業運営を実施し、ミュージアムショップの管理手数料は目標値の164%達成、カフェの管理手数料は3倍の達成率であり、好調であった。
		(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	○	◎顧客満足度調査において、顧客満足度(総合評価)98.8%を達成した。
		(5)顧客満足度指標	総合満足度の割合	×1	◎	
		(6)その他 (利用促進に向けた新たな取組)	利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○	
	総合	方針と目標の 達成状況	基本方針と達成目標 ・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	○	○収蔵展、自主企画展ともに内容を評価されており、年度当初に立てた来場数の目標値に対して概ね同程度の実績となった。また、アクセシビリティ向上の取組や、教育普及事業、地域や関係機関等との連携事業等にも力を入れている。

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
55	A

標準点	評価基準	S	59点以上
44点		A	55～58点
		B	39～54点
		C	38点以下

指定管理者の財務状況
財務状況には課題がなく、健全化に向けた取組が行われている。

特命要件の継続		
特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

令和7年度 東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者管理運営状況評価（一次評価）

施設名: 東京都現代美術館

※評価：◎水準を上回る(2点)　○水準どおり(1点)　△水準を下回る(0点)						
		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	○	○施設設備の管理において、日常の維持管理が適切に行われた。 ○危機管理において、定期的に防災訓練を実施し、事故発生時においては、都へ速やかに報告を行った。 △個人情報保護において、情報セキュリティポリシー等に基づく、研修や訓練を実施しているが、メールの誤送信1件、郵送物の誤送付1件が発生した。
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	○	
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○	
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	△	
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○	
	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	△	△施設の収支状況において、レストランやショップ等の収入は目標を上回った一方、企画展については、ソル・ルウィット展を除き入場料収入が目標を下回った。 ○外部資金獲得において、文化庁から助成金を受けるなど、合計で約1500万円の外部資金を獲得した。
(2)外部資金等の活用		助成金・協賛金等の外部資金獲得に積極的に取り組む。	×1	○		
(3)都有財産等(物品・現金等)の管理		必要に応じて都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○		
事業効果	事業の実施状況	(1)資料の管理 (収集、分類整理、記録、保管)	東京都の「収集の基本方針」に基づき、質の高い作品を収集し、適正な環境で保管する。	×2	○	◎資料の活用において、収蔵作品の写真撮影やデータ入力といった作品のデジタル化に積極的に取り組み、収蔵品のデジタル・アーカイブを充実させた。 ◎常設展の内容において、30周年企画を実施し、日本や東京における美術の歴史を提示し、文化的に意義のある展示を行った。また、展示構成について秀逸であり、東京都現代美術館ならではの魅力を紹介した。 ◎企画展の内容において、岡崎乾二郎展が毎日芸術賞を、作家も文化庁芸術選奨を受賞するなど、美術館の企画力が第三者から高く評価された。また、従来の展覧会の枠組みを超えて展開するMOTプラス＋プロジェクトが始動され、話題性のある映像インスタレーションや、アジアの若手作家の新作展を実施した。 ◎教育普及事業において、知的障害の特別支援学級・学校や、幅広い年齢層が通う通信制高校、これまで訪問機会の少なかった島しょ部でも訪問授業を実施した。 ◎その他の事業において、ボランティアによる展示ガイド(ギャラリートーク)を実施し、顧客満足度の向上に努め、ボランティアスタッフの研修においては、ろう者や作家を研修に招へいし、スタッフの能力向上を図った。
		(2)資料の活用 (貸出・借受外、資料情報システム、収蔵品の公開等)	作品貸与やデジタル・アーカイブに積極的に取り組み、収蔵作品の効果的な活用を図る。	×2	◎	
		(3)調査・研究	国際的な視点を踏まえた調査研究を行い、その成果を紀要やシンポジウム等で都民に還元する。	×2	○	
		(4)常設展の内容	常設展の実施を通して現代美術の成り立ちや魅力を紹介する。	×2	◎	
		(5)常設展の入場者数	130,000人以上。	×1	○	
		(6)企画展等の内容	国内外で注目される幅広いテーマやジャンルから選んだ企画を実現し、多様で魅力的なラインナップで開催する。	×2	◎	
		(7)企画展等の入場者数	300,000人以上。	×1	○	
		(8)教育普及事業	特別支援学級を含む学校への対応や、高齢者及び障害者等に向けた鑑賞プログラム、ワークショップなどにより、東京の社会課題に向き合うとともに、様々な体験事業を通して現代美術の普及に取り組む。	×2	◎	
		(9)美術図書室の運営	国内有数の規模を誇る美術専門図書室として専門性を高めるとともに、特色ある「こどもとよしつ」も積極的に活用する。	×1	○	
		(10)その他の事業	ボランティアの活用等、その他の事業についても適切に実施している。 また、ファン層の戦略的な拡大に向け、パスポートの活用を図る。	×1	◎	
	運営の実施状況	(1)休館日及び開館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1	◎	◎サマーナイトミュージアムでは開館時間の延長に加え、東京文化会館と連携し、エントランスホールでミニコンサートを実施した。また、休館日において、正月に臨時会館を2日館実施し、利用者のニーズに即した営業に積極的に取り組んだ。 ◎関係機関との連携において、アートウィーク東京においてディレクターズ・カンパセーションを誘致し、各国の館長が登壇するトークセッションを共催し、海外美術館とのネットワークを構築した。 ○広報において、各企画展が実験的・挑戦的な内容が多く、パフォーマンスを含む展示もあり、各展示の告知方法に苦戦し、HPのアクセス数が目標を下回った。(対目標60%/約540万件)
		(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他の美術館等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2	◎	
		(3)地域連携	地域と連携した事業展開・広報活動を行っている。	×2	◎	
		(4)施設及び附帯設備の貸出	幅広い用途にて貸し出しを図るとともに、リピーターを増やすことで、稼働率及び収入の向上を図る。	×1	○	
		(5)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2	○	
	施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	○	○館内サービスにおいて、展覧会とのコラボメニューを作成する等、より魅力あるレストラン・カフェを運営している。 ◎顧客満足度調査において、顧客満足度(総合評価)97.1%を達成した。 ○利用者アンケートの結果から、展示導線、サインや解説の表記内容、スタッフの案内の仕方等を工夫し、サービス向上に努めた。
		(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	○	
		(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	○	
		(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	○	
		(5)顧客満足度指標	総合満足度の割合	×1	◎	
(6)その他 (利用促進に向けた新たな取組)		利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○		
総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標 ・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	○	○展覧会においては、常設展、企画展ともに内容を評価されている一方、入場者数については目標に達しておらず、広報や集客の更なる工夫が求められる。	

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
56	A

標準点	評価基準	S	59点以上
44点		A	55～58点
		B	39～54点
		C	38点以下

指定管理者の財務状況
財務状況には課題がなく、健全化に向けた取組が行われている。

特命要件の継続		
特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

特記事項	
要改善事項等	

令和7年度 東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者管理運営状況評価（一次評価）

施設名: 東京都美術館

※評価: ◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)						
		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕等を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	○	○正門の地盤沈下による段差を解消する工事の実施等、必要に応じた修繕、補修等を実施している。
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	○	○事故報告等、適時適切に報告されている。地震・火災に対応した自衛防災訓練を2回実施。2回目は介助セミナーを実施し、視覚障害者等の避難誘導時の介助について多数のスタッフが学習した。
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○	○人員要求が認められなかった分について臨時職員を雇用し事業の実施に影響が無いよう対応した。
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	○	海外出張を含み積極的に研修へ参加する等能力向上に努めている。
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○	○個人情報漏洩なし ○各事業及び館の運営に関し、学芸会議・経営会議、外部評価委員会を適切に実施
	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○	○物価高騰に対応するために、一層の経費削減に努めるとともに、レストラン・ショップ等についても好調で目標の収入額を大きく上回り予算を大幅に上回る収入を確保した。
(2)外部資金等の活用		助成金・協賛金等の外部資金獲得に積極的に取組む。	×1	○	○企画展「つくるよこび生きるためのDIY」展で、大和日英基金から、奨励助成金として、1,740,870円(9000£)受け取った。なお令和5、6年度は受入実績はなし。	
(3)都有財産等(物品・現金等)の管理		必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○	○物品等の管理は適切に行われている。	
事業効果	事業の実施状況	(1)資料の管理 (分類整理、記録、保管)	適宜調査や補修等を行い、収蔵品を適切に管理している。	×1	○	○収蔵庫及び展示室のモニタリングに加え、とびうらに参加者を募り、野外展示彫刻の清掃を実施するなど、適切に管理されている。
		(2)資料の活用 (貸出・借受外)	他の都立文化施設の収蔵資料を活用することで、鑑賞の機会を提供し、有効活用を図る。	×2	◎	◎コレクション展「刺繍がうまれるときー東京都コレクションにみる日本近現代の糸と針と布による造形」では、財団内の美術館、博物館が管理する作品を有効活用した。目標入場者数を大幅に上回り(達成率:294%)、観覧者満足度:92.9%と好評。
		(3)調査・研究	館独自の事業やICTを活用した事業等に関わる調査研究等を行い、その成果を広く社会に還元する。	×2	○	○紀要の発行を通じて調査結果等を発表している。
		(4)特別展の内容	多様な視点で時代や地域を紹介する、質の高い芸術作品を用いた展覧会を開催する。	×2	◎	◎「ミロ展」「ゴッホ展 家族が見つない画家の夢」「スウェーデン絵画 北欧の光、日常のかがやき」について、ほぼ入場者数の達成率を大幅に上回り、内容満足度も好評であった。
		(5)特別展の入場者数	入場者数700,000人以上。	×1	◎	◎特別展の入場者数は計865,029人で、目標達成率は123%であった。
		(6)企画展の内容	創造や共生の場となり、「生きる糧としてのアート」と出会える場になるような展覧会を開催する。	×2	◎	◎「つくるよこび 生きるためのDIY」では鑑賞だけでなく、手を動かしたり対話できる体験型の展覧会としたことで、内容満足度は93%と高く入場者数も目標値の111%を達成した。
		(7)企画展の入場者数	入場者数 27,200人以上。	×1	◎	「上野アーティストプロジェクト2025 刺繍―針がすくい出す世界」では図録が会期中に完売(1,200冊)となった。
		(8)教育普及事業(アートコミュニケーション事業)	子供、青少年、高齢者、障害者、外国人等が主体的に参加できるプログラムの充実により、社会的課題の解決に取り組むとともに、他の自治体及び他館への普及を図る。	×2	◎	◎企画展の入場者数は30,209人で、目標達成率は111%であった。
		(9)美術情報室、アート라운ジの運営	美術情報室について、ライブラリー機能に、館のアーカイブズの役割を加え、より広範で深い美術情報を提供する場とする。	×1	○	◎R7年度はAC事業の中でも「Museum Startあいうえの」に焦点をあて、ミュージアムで創発される協働的な学びに注目し、多様な人々が作品との対話を介してつながりを育む営みや、文化への関心から始まる社会参加について考える機会とした。アートコミュニケーション事業においてはほぼすべての項目に関して目標値を大幅に上回った。
		(10)その他の事業	公募展活性化事業等、その他の事業についても適切に実施している。	×1	○	○目標の利用者数(4,098人)に対し、実績は7,729人(美術情報室3,481人+アート라운ジ4,248人)総達成率は総利用者数で188.6%。アート라운ジでは、東京文化会館との連携事業である「まちなかコンサート」およびアーカイブズ資料展示「東京都美術館の周年記念事業」を実施し、利用者満足度は87.5%と目標を上回った。
	運営の実施状況	(1)休館日及び開館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1	○	○鑑賞環境確保のための夜間開館等、都民サービス向上に努めた。
		(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他の美術館等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2	○	○上野の文化施設と連携し、学校プログラムやファミリープログラムを実施したほか、藝大美術館を会場に、台東区オレンジカフェに加えて台東区立台東病院と連携したプログラムを行った。
		(3)地域連携	地域と連携した事業展開・広報活動を行っている。	×2	◎	◎企画展では、学芸員の解説動画を作成。18万回以上再生されるなど、広報トレンドに対応した戦略的PRを実施。Instagramでは投稿数を増やすことでフォロワー数4.3万とR6年度から倍増。広報誌では特別展「ゴッホ展」にゆかりのある谷中の菊亭いせ辰を紹介するなど、地域の魅力を発信した。
		(4)施設及び附帯設備の貸出	公募展示室使用割当時稼働率 100%及びその他貸出施設等についても有効活用に努める。	×1	○	○公募展示室の割当時稼働率は100%とはならないが、講堂、スタジオは目標値を上回る稼働率となった。また、公募展示室の課題となっている空きコマの有効活用について、年度内の使用回数、使用室数の条件を緩和し、使用割当を行った。令和9年度分から追加募集が実施できるよう準備を行った。
		(5)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2	○	○X、Facebook、Instagram、youtubeの各アカウントで、適時有益な印象的な画像を高頻度で配信しアクセス数は目標値を超えている。
	施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	○	○ハード面というよりも、運用面で館内バリアフリーガイドを館ホームページに掲載し情報提供していることにより館内のアクセシビリティが向上。今年度は、担当職員がアクセシビリティ整備に関する研修を受講するなど意識の向上にも努めた。
		(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	○	○手話による施設案内動画も掲載している。またスタッフによる多言語対応に加え、ポケトーク等機器を活用した多言語対応が来館者との有効なコミュニケーションに役立てている。防災訓練における視覚障害者を避難誘導する方法について、研修を実施
		(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	◎	◎レストランおよびショップについて、目標を大幅に上回る収益を上げた。事業者と連携して業務改善やコラボメニュー、グッズ開発等に協力している。
(4)館内ホスピタリティ、苦情対応		委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	○	○月に1度の委託業者を交えたスタッフ連絡会等で情報共有や提案を行うことで平時のホスピタリティの向上、緊急時の管理体制確保に努めている。	
(5)顧客満足度指標		総合満足度の割合	×1	◎	◎顧客満足度(総合満足度)は92.6%で、前年の91.7%を上回った。	
(6)その他 (利用促進に向けた新たな取組)		利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○	○各事業及び館の運営に関し、学芸会議及び経営会議において、検証・決定を適宜行っている。また事業改善に向けて外部評価委員会の意見を運営向上に活かしている。	
総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	○	特別展・企画展については、多彩なラインナップのもと、質の高い展示構成。全企画が来場者が自らの目と心で作品を見、美術をまたその基準を問い直し、その様に生の世界を新鮮に体験しなおそうと見たり考えたりあるいは作り出したいと願うようにするという点で優れ、成功していた。 アートコミュニケーションにかかわる諸活動・事業は本年度も高い水準で膨大・多様且つその都度鮮度をもって展開された。

特記事項	
要改善事項等	

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
57	A

標準点	評価基準	S	58点以上
43点		A	54～57点
		B	38～53点
		C	37点以下

指定管理者の財務状況
財務状況には課題がなく、健全化に向けた取組が行われている。

特命要件の継続		
特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

令和7年度 東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者管理運営状況評価（一次評価）

施設名: 東京都庭園美術館

※評価:◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)							
		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由	
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕を行い、来館者の安全確保に努めている。 重要文化財としての旧朝香宮邸本館・茶室や庭園の維持保全のため、適切な管理に努めている。	×2	◎	◎休館館期間に合わせてオリジナル照明器具の清掃や、カーテンのクリーニング、丁寧な清掃、保存活用計画に基づいた建物金具の点検等を行うなど、施設・設備とも適切に点検され、安全性が確保されている。 ○庭園の倒木対策や園路整備等安全対策を着実に実施するとともに、適切に都へ報告している。 ○館内アンケート等を速やかに共有している。	
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	○		
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○		
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	○		
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○		
	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	◎	◎ミュージアムショップでは、美術館の意匠を用いたオリジナル商品が人気で、売上が倍増。 ○協賛社の拡充に努め、多様な資金調達をしている。 ○カードキーの管理方法の見直しにより、館内出入に関するセキュリティの強化を図り、安全性の向上に努めた。	
(2)外部資金等の活用		助成金・協賛金等を通じた外部資金獲得に積極的に取り組む。	×1	○			
(3)都有財産等(物品・現金等)の管理		必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○			
事業効果	事業の実施状況	(1)資料の管理 (収集、分類整理、記録、保管)	東京都の「収集の基本方針」に基づき、質の高い作品を収集し、適正な環境で保管する。	×2	◎	◎ルネ・ラリックの作品を多数収蔵するとともに、建物公開展での展示機会が多い小椅子や長椅子等の修復や、小客室の壁画のクリーニングや剥離止めの補修を実施。 ◎美術館が所蔵するアール・デコ関係書籍についてのデータベースを構築し公開。 ◎建物公開展で、触れられる機会の少なかった外相公邸・首相公邸・迎賓館時代に焦点をあて、好評を博し、入場者数も目標を上回った。 ◎アール・デコ博100周年記念で開催された「夜会」が非常に好評で広報効果も高く、新規来館者の獲得にもつながった。定期的に開催している庭園能や庭園美術館コンサートを開催した。チケットは早々に完売した。 ◎年間パスポートの発行枚数の増加、オンライン申込の導入などを実施。	
		(2)資料の活用 (貸出・借受外、資料情報システム、収蔵品の公開等)	作品貸与やデジタル・アーカイブに積極的に取り組み、収蔵作品の効果的な活用を図る。	×2	◎		
		(3)調査・研究	国際的な視点を踏まえた調査研究を行い、その成果を紀要やシンポジウム等で都民に還元する。	×2	○		
		(4)建物・庭園公開事業の内容	旧朝香宮邸や庭園の調査研究に基づき、その文化財としての価値を様々な観点から紹介する建物公開展を実施する。	×2	◎		
		(5)建物・庭園公開事業の入場者数	入場者数40,000人以上。	×1	◎		
		(6)企画展の内容	館の基本方針を踏まえ、空間特性を活かしながら、国内外の装飾芸術を魅力的に紹介する。	×2	◎		
		(7)企画展の入場者数	入場者数109,940人以上。	×1	◎		
		(8)教育普及事業	子供、青少年、障害者や高齢者、子育て世代、外国人等あらゆる人々が参加できるワークショップや各種イベント等の開催を通じ、社会的課題の解決に取り組むとともに、多くの人に文化財の価値や意義を伝える。	×2	◎		
		(9)その他の事業	ファン層の拡大に向け、パスポートの戦略的な運営を図る。	×1	◎		
	運営の実施状況	(1)休館日及び開館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1	○	◎港区立郷土歴史館でのサテライト展示という新たな試みを実施。 ◎目黒駅(JR東日本)と連携したワークショップや、近隣の飲食店との庭園マルシェを定期的に開催するなど、地域とのイベント活動を行っている。 ◎ユニークベニューでサイレントディスコシステムのファッションショーを開催するなど新たな利用例があった。アール・デコ博100周年という節目に開催したイベント「夜会」に多くの人が集まり、新規来館者の増大に寄与した。 ◎桜と紅葉の時期に夜間ライトアップを行い、入場者数が目標を大幅に上回った。	
		(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他の美術館等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2	◎		
		(3)地域連携	地域と連携した事業展開・広報活動を行っている。	×2	◎		
		(4)施設及び附帯設備の貸出	幅広い用途にて貸し出しを図るとともに、リピーターを増やすことで、稼働率向上を図る。	×1	◎		
		(5)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2	◎		
	施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	○	○重要文化財という制約がある中、施設面での完全なバリアフリーは難しいが、スタッフで工夫をこらして取り組んでいる。 ○屋外サインを改修するとともに、やさしい日本語プログラムのアーティストによるワークショップの実施、アクセシビリティ向上についても継続して積極的に取り組んでいる。アクセシビリティの取組を来館者に展示でも紹介した。 ◎美術館の意匠を用いたオリジナルグッズが好評を博し、店舗の売上が倍増。次年度の新商品の計画も検討中。 ◎チケット管理システムと日時指定予約制を導入することにより、入館者数をコントロールできるようになった結果、チケット売場や館内の混雑を端的に縮小出来、待ち時間の短縮やより良い鑑賞環境を提供出来るようになった。 ◎総合満足度が97%となっている。	
		(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	○		
		(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	◎		
		(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	◎		
		(5)顧客満足度指標	総合満足度の割合	×1	◎		
		(6)その他 (利用促進に向けた新たな取組)	利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○		
	総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	◎	◎多くの項目で目標を上回り、来館者にも好評で、職員が工夫をこらし積極的に取り組んでいる。

特記事項	
要改善事項等	

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
72	S

標準点	評価基準	S	58点以上
43点		A	54～57点
		B	38～53点
		C	37点以下

指定管理者の財務状況
財務状況には課題がなく、健全化に向けた取組が行われている。

特命要件の継続		
特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

令和7年度 東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者管理運営状況評価（一次評価）

施設名: 東京文化会館

※評価: ◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)							
		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由	
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕等を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	○	○定期点検の報告に基づく迅速な修繕を実施し、来場者の安全を確保している。 ○消防法に基づき防災訓練を2回実施し、消火器及びAEDの使用訓練を行い、館内委託事業者を含めたスタッフの防災スキルの向上に努めた。 △メールの誤送信による個人情報の流出あり。 ○利用者からの意見(空調や初回利用者)に対し適切な対応を行っている。利用者アンケートでは目標値よりも高い評価を得ている。	
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	○		
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○		
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	△		
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○		
	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	◎	◎昨年度比で収支が増となり黒字を維持している。(決算額 48,589,721円、R6決算 35,568,220円)	
(2)外部資金等の活用		助成金・協賛金等の外部資金獲得に積極的に取組む。	×1	○	○昨年度に引き続き文化庁等助成金等は総合支援事業での採択となった。また地域創造、野村財団等の助成金が採択され、音コンで花王他6社から協賛金を獲得した。(目標比99%)		
(3)都有財産等(物品・現金等)の管理		必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○	○適切に物品管理をしている。		
事業効果	事業の実施状況	(1)施設の貸出 (大ホール、小ホール)	大ホール稼働率 90%以上、小ホール稼働率 80%以上。	×2	○	○大95.9%、小86.3%いずれも目標値を上回った。 ○貸出についてSNS(X)で発信。リハーサル室の稼働率は93.3%、会議室は47% ○オンライン・プログラムでは、目標2件に対して3件(オペラBOX等)制作した。またアクセス数は昨年度の0件から1249件(目標アクセス数2000件) ◎東京音楽コンクールではピアノ、木管、声楽部門を開催し、421名が応募(最終的に14名が入賞入選)。若手音楽家の発掘に貢献している。さらに、才能を持つ若手音楽家を発掘するだけでなく、各事業へ東京音楽コンクール入賞者等を積極的に起用し、その飛躍に貢献している。(入賞者起用数241人 R6は204人) ◎「夏休み子ども音楽会」は、入場者数目標1,800人に対し実績2,003名を達成し、連携施設の無料入場パスポートの特典により、上野地域の活性化にも繋がっている。有料率97%(目標80%)及び内容満足度99%(目標80%)とかなり高い。コンビビアル・プロジェクトとして障害や年齢、社会的背景に関わらず参加できるプログラムの実施やアウトリーチなど、社会包摂・社会課題の解決に向けた取組を行っている。 ○OLPレコードの所蔵情報を図書館システムで検索できるようにする取組を昨年度から継続。 ○着実に登録者が増加(ひと月あたり250人程度増加)しており、館の魅力発信に加え、賞館公演でもチケット先行発売や割引販売などの特典情報があり、また自主事業の情報源としても一定認知されており、有益な情報発信ツールとして機能している。	
		(2)施設の貸出 (リハーサル室、会議室等)	会議室等について積極的な貸出を行う。	×1	○		
		(3)芸術文化の振興に関する事業 (創造・発信)	質の高い創造を行い、全国への幅広い成果の波及を図るとともに、オンラインプログラムの製作・配信など、最先端技術の活用にも取り組む。	×2	○		
		(4)芸術文化の振興に関する事業 (育成・支援)	才能を持つ新進・若手音楽家等を発掘、起用し育成を図る。	×2	◎		
		(5)芸術文化の振興に関する事業 (次世代への投資・社会的課題の解決)	子供や高齢者、障害者などに向けたワークショップ・アウトリーチ活動を積極的に行い、音楽文化の継承を図るとともに、社会的課題解決に取り組む。	×2	◎		
		(6)音楽資料室の運営	利用実態等を踏まえた運営を行い、顧客満足度を向上させる。	×1	○		
		(7)その他の事業	「東京文化会館メンバーズ」の運営等、その他の事業についても適切に実施している。	×1	○		
	運営の実施状況	(1)休館日及び開館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1	○	○年末年始に大ホール、小ホールでの公演開催の要望があるため臨時開館OMPT <Music Program TOKYO>ワークショップでは様々な事業で文化施設と連携 ◎他の文化施設との連携により行った事業について、ほぼ目標の入場者を大きく上回り、満足度も高かった。 ◎障害者施設等の連携数 目標値:10施設以上 実績: 14 ○上野公園9文化機関が連携し、子供たちが文化やアートを介して「社会に参加しつながりを持つこと」を推進するMuseum Start あいうえの に参画。○上野公園9文化機関が連携し、子供たちが文化やアートを介して「社会に参加しつながりを持つこと」を推進するMuseum Start あいうえの に参画し協力した。○屋内外サイネージを、主催事業の広報・宣伝や東京都事業の普及啓発等に活用した。前年度末に記者懇談会を開催して主催事業について周知する機会を設けた。 東京文化会館メンバーズ向けメールマガジンを定期的に月2回配信した。(状況に応じ号外配信あり) コンビビアル・プロジェクトに関するメールマガジン「コンビビアル通信」を継続してほぼ月1回配信した(購読者数281名 前年度238名)。 Twitterフォロワー数目標:16,000人以上→実績16,748人(105%) ウェブサイトアクセス数目標:200万件以上→実績:2,368,853件(118%)	
		(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他のホール・劇場等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2	◎		
		(3)地域連携	地域と連携した事業展開・広報活動を行っている。	×2	○		
		(4)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2	○		
	施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	○	○視覚・聴覚に障害のある方への情報サポート及び鑑賞サポートを推進するため、大ホールの触察模型を作成・設置したほか、全編日本手話で案内する「手話でバックステージツアー！」を開催。また、ろう者や多言語話者に対し対話内容をテキスト表示できる透明ディスプレイを総合案内、楽屋口に設置。 ○視覚・聴覚障害者への情報サポート推進するため、触知模型を作成し前年度に製作した触知図を含む点字ガイドブックとともに運用を開始しアクセシビリティの向上を図るとともに、多様性や社会共生の観点から、館内のWi-Fi等ネットワークを活用し、各窓口にタブレットを設置し、遠隔手話通訳サービス等の運用を開始した。 ◎SNS等でタイムリーに情報発信を行ったほか、来館者層のニーズに応える商品ラインナップの提供、主催事業や催事と連携した企画販売を実施した。管理手数料等収益見込:54,574千円→実績:81,676千円(149.7%) ○「アクセシビリティ情報」WEBページの「やさしい日本語」ページを新設。 ◎総合満足度97.8% 事業満足度 大ホール公演 99.5%、小ホール公演 100% ○当館への電話での問合せが難しい方への配慮として、問合せフォームを新設。	
		(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	○		
		(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	◎		
		(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	○		
		(5)顧客満足度指標	総合満足度の割合	×1	◎		
		(6)その他 (利用促進に向けた新たな取組)	利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○		
	総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	○	○「音楽・舞台芸術の殿堂」にふさわしい良質な公演の鑑賞機会を確保すると同時に、次世代への音楽文化の継承と教育普及、社会包摂・社会課題の解決といった今後より一層重視される課題にも、力を入れて取り組んでいる。～など、利用者の利便性の向上に取り組んだ。

特記事項	
要改善事項等	

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
47	B

標準点	評価基準	S	51点以上
38点		A	48～50点
		B	34～47点
		C	33点以下

指定管理者の財務状況
財務状況には課題がなく、健全化に向けた取組が行われている。

特命要件の継続		
特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

令和7年度 東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者管理運営状況評価（一次評価）

施設名: 東京芸術劇場

※評価: ◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)

		確認項目	評価水準	配点	評価	
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕等を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	○	○ 休館期間を利用して、消防設備や空調機の修繕を実施。開館後も引き続き、トラブルが発生したが、館運営の影響が最低限となるように対応を行った
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	△	△ 事故発生後の第一報は迅速に実施された一方で、原因整理及び応急・恒久対策の方針策定において、対応の遅れが認められた。
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○	
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	△	△ 委託会社において、メール誤送信に起因する個人情報流出事故が発生した。
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○	○ 運営委員会、各ホール利用選考委員会等、安定的で公正な劇場運営のため、各種委員会や会合が適切に開催されている。
	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○	○ 文化庁補助の確保により外部財源を確保し、複数年度で安定的に事業を展開するとともに、収支差は約2,000万円の赤字を抑え、事業規模約30億円に対して極めて小さい水準であり、収支均衡に近い健全な財政運営が図られている
		(2)外部資金等の活用	助成金・協賛金等の外部資金獲得に積極的に取組んでいる。	×1	○	
		(3)都有財産等(物品・現金等)の管理	必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○	○ 文化庁「劇場・音楽堂等機能強化推進事業」に2年連続で採択されるなど、協賛金獲得額が前年比32%増となり、財源の多様化及び拡充が図られている。
	事業効果	(1)施設の貸出 (大ホール、中ホール、小ホール)	稼働率について、大ホール 70%以上、中ホール 87%以上、小ホール1 96%以上、小ホール2 94%以上。	×2	◎	◎ 大ホール:89.5%、中ホール:92.1%、小ホール1:99.3%、小ホール2:99.1% 高い稼働率の実績。いずれのホールで目標を達成
		(2)施設の貸出 (展示室、リハーサル室、会議室)	展示室やリハーサル室等について積極的な貸出を行う。	×1	○	◎ 海外の優れた舞台作品の招聘や国際共同制作を進め、「ヨナ」の海外芸術祭参加・国内ツアーや、「世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド」の海外公演を実施するなど、作品の国際展開を推進した
		(3)芸術文化の振興に関する事業 (音楽)	質の高い事業を発信しつつ、地方館との連携強化や国際的な事業展開を行うとともに、オンラインプログラムの製作など、最先端技術の活用にも取り組んでいる。	×2	○	
		(4)芸術文化の振興に関する事業 (舞台芸術)	質の高い事業を発信しつつ、地方館との連携強化や国際的な事業展開を行うとともに、オンラインプログラムの製作など、最先端技術の活用にも取り組んでいる。	×2	◎	○ 音楽・演劇の人材育成事業を実施し、修了生の就職(劇場・オーケストラ)につながるなど成果を上げている。GOA等では継続的に若手育成と演奏機会の提供(25件)を行い、人材の育成・活躍を促進した。また、東京演劇道場では参加者が延べ70作品以上に出演し、実践の場を着実に確保した。
		(5)芸術文化の振興に関する事業 (育成・支援)	次代の舞台芸術を担う人材の育成事業を積極的に企画・実施している。	×1	○	
		(6)芸術文化の振興に関する事業 (次世代への投資・社会的課題の解決)	子供、高齢者、障害者等多様な主体を対象に、劇場を身近に感じてもらえるような教育普及プログラムを企画・実施し、次世代に舞台芸術を継承するとともに、社会的課題の解決に取り組む。	×1	◎	◎ 劇場ツアーや屋外イベント、ファミリー向けコンサート等を通じて幅広い層の来館を促進しており、ツアー参加者は260人、満足度94.9%と高い評価を得ているほか、大道芸には約12,000人が来場するなど賑わいを創出した。また、オーケストラコンサートでは初来場者が27%と目標を上回り、新規来場者の開拓にもつながった
		(7)芸術文化の振興に関する事業 (劇場の賑わい創造事業ほか)	多様な人々がともに参加できる、楽しく賑わいのある空間を創出する。	×1	○	
		(8)パイプオルガンの保守・管理及び活用	パイプオルガンを活用し、オルガン音楽の魅力を普及させる。	×1	◎	◎ パイプオルガンを活用した一連事業を展開し、避難訓練コンサートやリオープン公演により認知度を向上させたほか、出演者トークの導入により親しみやすさを高めた。講座ではオルガンの魅力発信を行い、リサイクルでは海外アーティスト招聘や地方館との連携に加え、SNS広告の活用など新たな広報手法により入場者数の増加につなげた
		(9)その他の事業	水天宮ピットの運営等、その他の事業についても適切に実施している。	×1	○	
	運営の実施状況	(1)休館日及び開館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1	○	◎ 国内外の連携を強化し、ロームシアター京都との共同制作『Planet』で日本ツアーを実施したほか、フィルハーモニー・ド・パリとの連携によりマスタークラスを開催するなど、国際的な人材交流と劇場間のネットワーク強化を推進した。
		(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他のホール・劇場等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2	◎	
		(3)地域連携	地域と連携した事業展開・広報活動を行っている。	×2	○	○ 公式サイトのリニューアルやInstagram広告・動画活用により情報発信力を強化し、フォロワー外へのリーチ拡大とフォロワー増加を実現した。さらに、英語版を含む年間ラインナップを制作・発信することで、海外への情報発信も強化した。
		(4)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2	○	
	施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	○	
		(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	○	○ 公式サイトを刷新し、英語版の年間ラインナップを掲載することで、国内外への情報発信を分かりやすくした。また、インバウンド対応のチケット購入ページを整備し、外国人にも利用しやすい環境を整えた。
		(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	○	さらに、「Train Train Train」では障害者がWEBでチケット購入できる仕組みを試行し、その結果、来場割合が通常の約1%から3%に増加するなど、より多くの人が来場しやすくなる効果が見られた。
		(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	○	
		(5)顧客満足度指標	総合満足度の割合	×1	◎	◎ 総合満足度は97%と非常に高く、各事業の内容についてもいずれも9割以上が満足と評価されている。また、料金についても約9割が満足と回答しており、全体として高い評価を得ている。
		(6)その他 (利用促進に向けた新たな取組)	利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○	
総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	○	各種目標を概ね達成し、安定的かつ適切な施設運営が行われている。舞台芸術の国際展開や人材育成、賑わい創出、アクセシビリティ向上等において具体的な成果を上げており、全体として良好な運営状況にある一方で、個人情報流出事案が発生しており、再発防止に向けた取組の徹底が求められる。

特記事項	
要改善事項等	

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
45	B

標準点	評価基準	S	52点以上
39点		A	49～51点
		B	35～48点
		C	34点以下

指定管理者の財務状況
財務状況には課題がなく、健全化に向けた取組が行われている。

特命要件の継続		
特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。